

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人小早川輝雄の上告趣意は、憲法三九条後段違反をいうが、刑法二五条一項二号は、刑の執行猶予の一要件を定めたものであつて、前に禁錮以上の刑に処せられた犯罪につき重ねて被告人の責任を問い、処罰する趣旨のものではないから、所論は、前提を欠き、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四六年五月三十一日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	松	本	正	雄
裁判官	田	中	二	郎
裁判官	下	村	三	郎
裁判官	関	根	小	郷